

仕事人秘録

河内氏は1943年に福岡県で生まれ、生後4カ月で旧満州(現中国東北部)の黒竜江省ノンジヤンに渡った。

父は14年、福岡県内野村大字弥山字君ケ畑(現・飯塚市)の農家に生まれ、35年に軍隊に入りました。除隊後、商売で一旗あげようと40年5月に満州に渡ります。同郷の母と結婚し、私が生まれたころは土木業で独立し、休む間もなく一生懸命働いていました。

45年3月に父は現地召集となり、終戦後、シベリアで抑留されます。母は2歳の私と、9月9日に生まれ、たばかりの長男の政敏を抱え、チチハルに南下。収容所の環境は赤ちゃんには厳しく、弟は日本の地を踏み

看板商品がトップ育てる ②

マロニー社長

河内 幸枝氏



福岡で生まれ、父が事業をしていた満州で育った(1歳のころ)

大陸での経験、商売人魂育む

ことなく翌年6月、9カ月 命を終えました。

自分の記憶なのか、母に聞いた話なのか定かではありませんが、チチハルからハルビンまで「地球は丸い」と実感するような原野を無蓋の貨車で移動しました。突然停車したかと思うと数日後にアナウンスもなくガタンと動き出すので、親子どもが外で遊びたがっても絶対に列車から降ろさな

続けたことを強烈に覚えています。石炭運びに没頭することで、行き場のない感情を鎮めていたのです。作業が終わるとなんだかすっきりして、しんどさが消える。そういうことを比較的早い時期から自然にやっています。ストレスに強い性格かなと思います。

弟が生きていれば父の後継者になっていたでしょう。私が会社を継ぐことになった時、はっきりと弟の代わりだと思いました。生かさせてもらっているのだからやらなくちゃ、という思いが大きくなりました。

満州で父の事業が成功していたので、引き揚げる途中でもおカネはたくさん持っていました。後年、母が「おカネが命を助けること」と覚えていきます。

46年9月、引き揚げ船で帰国した。弟の死や引き揚げ体験は、その後の生き方に影響を与えた。今でこそ「姫」というあだ名がつくほど好き勝手やらせてもらっていますが、小さいころからいっばい耐えてきたと思います。小学校に上がる前、従業員が使う石炭を誰に頼まれてたわけでもなく黙々と運び

経営・人事

